

情報技術の

PROFESSIONAL

匠

第62回
ビッグデータ分析の匠^{たくみ}

数字は嘘をつかない

日本アイ・ビー・エム株式会社
ビジネス・アナリティクス & オプティマイゼーション
マネージング・コンサルタント

羽田 知史

博士 (情報科学)



得意な科目は算数だった。暗記ものと違って、最低限の公式さえ覚えて考え方を理解すれば、問題は自然に解けた。算数少年から数学青年へと成長した羽田知史が大学時代に惹かれたのは通信技術だった。

「電話というテクノロジーを純粋にすきと感じていました。これがきっかけで数理科学が生きる分野を志すようになったのです」

そんな羽田が暗号理論を専攻したのは、ごく当然のことだったのかもしれない。呼吸をするように数字や公式と触れ合い、暗号などの理論の世界を学んだ。

そして就職先として選んだのは、通信技術関連の研究所。これもまた自然の成り行きと言えるだろう。しかし羽田は、自分の視座がもっと高いところにあり、その視野はより遠くまで見渡していることに、いつしか気づいた。

「当初はセキュリティーの研究に没頭しました。しかし4年経った頃、実力主義のオープンな舞台に飛び出たいと願い、IBMへ転職しました」

東京基礎研究所へ入所し、Webサービス関連の標準化やソフトウェアのセキュリティー機能の研究開発を担当した。しかし羽田は、次第にお客様に近い“現場の世

界”をより強く意識するようになっていた。

「ソフトウェアの研究開発では、お客様との直接的な接点がありませんでした。もともとの私は理論派の研究者でしたが、いつしか『理論だけでなく、業務現場をもっと知りたい』という考えを強くしました。私は次第にお客様にもっと近づきたい、お客様の業務と寄り添う現場に出たいと思うようになったのです」

* * *

そう考えながらも多忙な日々を過ごしていた2009年、IBMの新戦略であるBAO (Business Analytics and Optimization : ビジネス分析と最適化) が羽田の目に飛び込んで来た。会社の描くビジョンや戦略と、自分の目指す方向性がピッタリと一致したと感じた。羽田はそう振り返る。追い風だった。

「基礎研究からコンサルティングまで、幅広く持っているのがIBMの強みだと感じます。そうしたバックボーンを持つIBMが提唱するBAO戦略には心が躍りました。そして2011年に部署を異動しました」

BAOコンサルタント。これが羽田の新しい肩書きになった。業務はデータの分析。お客様の企業内に蓄積されたビッグデータを用いて、売上やマーケティング情

報の分析をしたり、データの流れを注視してワークフローやジョブ処理のボトルネックや非効率な箇所を洗い出す。そうしてお客様へ改善を提案する。それらは多くの場合、お客様のコスト削減や効率向上など、目に見える成果となって返ってきた。それは、データの山の中から宝石を取り出すような瞬間だ。

データ量はここ5年間で10倍以上へと爆発的に増大した。インターネット上で発生するコンテンツ、社内外のシステムから出力されるデータ、そしてセンサーやRFIDタグなどから生成される情報など、その発生源も多様化している。しかもそのうち80%は取り扱いがひと筋縄ではいかない非構造化情報だ。どうやって有益な情報とノイズを峻別し、分析するか。ここに羽田たちのチームの知見が生かされる。同時に最も輝く瞬間でもある。

「データ分析で得られる発見や気づきがあり、『これはお客様に喜んでいただけそうだ』と感じるとアドレナリンが出るのが分かります。しかし見つめるだけが仕事ではありません。可視化されたデータを次のアクションへと結びつけ、具体的な成果という価値を生み出すまでお客様と共に走っていくのです」

プロジェクトはたいてい2カ月から3カ月を必要とする。羽田はまずお客様との信頼関係を構築することに努める。そしてプロジェクトの着眼点を洗い出す。ここからが元算数少年のオンステージだ。

「数字は嘘をつかない。ですから些細なミス、計算の間違いなどは決して起こしません。結論が出たら、ここからが言葉の出番。ビッグデータという資産から価値を生み出せるかどうかは、数字が示す結論をいかにシンプルでわかりやすいメッセージにし、そしてお伝えするかにかかっています」

最新数理技術を活用してお客様のビジネス課題の解決に取り組む一方で、休日は2人の息子の父親としてスポーツで汗を流す。

「学生時代にはレガッタ（ボートレース）やテニスに打ち込んだアウトドア派でした。今では長男とのキャッチボールが何よりも疲れた頭のリフレッシュになります」

家族サービスを大切にする父親としての羽田の笑顔は

優しい。家族と過ごす時間がメリハリとなる。

「息子がiPadを使っています。それも、誰に習うことなく直感的に。そうしたアプリケーションを巧みに使いこなしている姿を見ながら、タブレット端末が次なる業務改善の道具として、お客様の業務現場で活用される環境を想像します。では、どのようにしてそれを実現するのか。デバイスとソリューションの融合のヒントを、息子たちと過ごす時間や家庭での日々の食卓で気づくこともしばしばです」

数と理論を駆使してデータの中から宝石のような知見を見つけ出す。それは次なるアクションの提案となってお客様の未来を照らす光になる。数理科学技術に裏打ちされた分析技術とソリューションを組み立てる「人間力」。BAOコンサルタント羽田知史は、分析プロフェッショナルの真摯さと、未知へと挑む果敢さの両面を兼ね備えている。

Satoshi Hada

情報通信企業の研究所を経て、1999年日本IBM東京基礎研究所に入所。暗号理論、セキュリティー技術（主にWebサービス関連の標準化やソフトウェア製品開発）を担当。2011年、BAOコンサルタントとして現部門へ異動。売上、ワークフロー、パッチジョブ、SNSや株価など各種データの分析を担当。

